

# みんなの町議会



五城目保育園入園式

## 目次

2011年5月1日

**No. 106**

- 3月定例会の概要 ..... 2
- 農業委員定数条例の一部改正 ..... 3
- 一般質問（5名）..... 4～8
- 常任委員会の焦点 ..... 9～11
- 東日本大震災 ..... 12～13
- 請願・陳情・意見書送付 ..... 14
- あれ なんと なった べが！ ..... 15
- 「いちび」をたずねて・がんばってます… 16

# 豊かで暮らしやすいまちづくりに 50億4千万円！

前年度比 4.2%減

## 3月 定例会

### 議会の概要

3月定例会は3月7日から14日までの8日間の日程で開いた。

一般質問は5人が登壇し、町政の諸課題について活発な議論を展開した。

提出案件は23年度一般会計当初予算案、22年度一般会計補正予算案、住民生活に光を注ぐ基金条例案、企業誘致の促進を目指す企業立地推進基金設置条例案など40件。

渡邊町長は施政説明で『社会情勢を的確に捉え、新たなまちづくりの指針となる総合発展計画を策定する。当初予算は事業の必要性、緊急性などを検討し財政の健全化に配慮した』と述べた。

一般質問、各常任委員会審議を行い、最終日は委員長報告の後、議案42件を全会一致で可決、継続審査の農業委員会の議会推薦委員の条例制定案、朝市ふれあい館条例制定案は賛成多数で修正可決した。

陳情3件を採択、2件を継続審査、1件を不採択、追加提案された議員提出議案の議会委員会条例改正案などを含む4件を可決して閉会した。



平成23年度の

主な予算

- 町道整備事業  
1億2千375万円
- 緊急雇用創出事業  
1億2千301万円
- きめ細かな交付金事業  
8千839万円
- 住民生活に光をそそぐ交付金事業  
3千50万円
- 企業立地推進基金を設置  
1億円（積立）  
企業が立地するときの支援措置として基金を新たに設置した。

3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に被災されました皆様にご心よりお見舞い申し上げます。犠牲になられた方々とご遺族の皆様にお悔やみ申し上げます。

五城目町議会では岩手県大槌町に義援金と救援物資を届けました。一日も早い復興を祈っております。

“がんばれ東北”  
“がんばれ大槌町”

(伊藤 正春)

# 農業委員定数2減 修正可決



耕作放棄地調査

第1回臨時会では農業委員の定数条例の一部を改正する条例案が総務常任委員会に付託された。五城目町第4次行政改革の推進に伴い、農業委員会の組織のスリム化・効率化を図るため提案されたものであり、農業委員会では「定数に関する調査会」を5名の委員で立ち上げ、数回にわたり協議を行い定数削減案をまとめた。

削減案は選挙による定数「14名」を「13名」に改める。選挙区定数「内川、富津内地区」は「5名」を「4名」に改める。議会推薦委員は「3名」を「1名」の内容。総務常任委員会では慎重に議論を深めたいとして継続審査となり、本会議でも賛成多数で継続審査となった。

3月定例会では総務常任委員会で選挙区定数「内川・富津内地区」に関しては原案可決。議会推薦委員「3名」から「2名」に修正案が出され賛成多数で修正可決すべきものとして決した。

農業委員会の使命は農地の有効利用、担い手の確保など農業振興・農村の活性化に果たす役割は重要になっている。

農水省・県の農業会議の通達で女性農業委員の選任を求められていることから修正案は通達の意向に沿った内容である。



荒廃している農地

本会議では佐藤成孝議員から原案に賛成の立場で「削減案は自立計画の改革プログラムに沿ってまとめたものであり組織のスリム化・効率化を果たしている。」と賛成討論があった。採決は委員長報告の通り賛成多数で修正可決した。

## 修正案に賛成者

伊藤 正春 佐藤 重信  
大石 フサ 荒川 達雄  
伊藤 英紀 館岡 隆  
千田 峯夫 小林 正志  
工藤 卓美 館岡 幸雄

## 修正案に反対者

佐々木鉄美 石井 章司  
石川 交三 佐藤 成孝  
澤田石亀雄

## 「朝市ふれあい館」設置 条例案は修正可決

### 修正案に賛成者

地域交流センター「朝市ふれあい館」は継続審査中であつたが、土地賃貸借契約書は交わしている。第一条の文言を一部修正し、産業建設常任委員会では全会一致で修正可決した。本会議で採決が行われ賛成多数で修正可決した。

### 修正案に反対者

伊藤 正春 佐藤 重信  
佐々木鉄美 大石 フサ  
荒川 達雄 伊藤 英紀  
石井 章司 館岡 隆  
千田 峯夫 小林 正志  
石川 交三 工藤 卓美  
館岡 幸雄

## 秋田県町村議会議長会より 自治功労者表彰



佐藤 成孝 議員

(伊藤 正春)

# 一般質問

## 湖東病院再生に向け県が示した 「総合医」育成事業の評価は？

### 町長 医師確保の一つの方策である



石川 交三  
(日本共産党)

**石川** 県では今年度に指導医を確保し、プログラム策定し、14年度以降は6人の常勤医を確保するというが実現性があると考えるか。

**町長** 10月に指導医を採用し、24年4月から研修医の受け入れをするスケジュールであり、26年度までに指導医1人、研修医5人を確保する予定。県は予算計上し積極的に取り組む姿勢であり期待しているが、スケジュール通り進むか心配される。

**石川** 医師数と今後の動向を把握しているか。

**町長** 2月1日現在で常勤が5人、非常勤が9人。22年度決算で3億6千万円の赤字見込みと聞いている。厚生連で改築のための調査費を計上の予定で、基本設計図が示されると改築が具体的に見えてく

ることから、医師確保や住民の不安解消に繋がるのではないかと。

**石川** 救急車は秋田方面に向かい時間がかかる。多重発生には対応できない恐れがある。消防職員増と救急車の増車が必要ではないか。

**町長** 非番招集でも対応しきれない場合は、近隣消防への応援要請で対応する。消防広域化を目前に控えており救急車の増車は別として職員増は現状では難しい。

**石川** 救急の実態はどうか。  
**消防長** 出勤から帰署までの時間が大幅に増え、救急車の不在時間が必然的に多くなった。秋田市内の病院への平均搬送時間は98分である。



救急車疾走する。命を守る!!

**石川** 総務省消防庁の「消防力の整備指針」とわが町の実数、条約定数と車両基準は。

**消防長** 実数は26名。条例は29名。国の整備指針では50名体制が望ましいと算定されている。県内13消防本部はすべて基準値に満たず、平均充足率は70・2%。高いのが男鹿地区消防で91・1%。最も低いのがわが町で52%である。

### 国保税は引き下げが必要だ

**町長** 重い負担となつて  
いることは十分承  
知している

**石川** 国保は「払いたくても払えない」過酷な税になつて  
いる。

**町長** 一人当たりで7万3千4百円で県内では低いほうだ。重い負担となつているが、負担能力に応じての助け合い制度であり、理解してほしい。

**石川** 法定外繰り入れを大胆に行なつて引き下げすべきでないか。東北でもほとんどの市町村が繰り入れしている。



役場の国保窓口

**町長** 国庫負担による財政措置の拡充強化を国に強く要望している。財源不足が生じた場合、税率改正での財源確保が原則であり、難しい。

### 指定管理者制度でのワーキングプア問題を問う

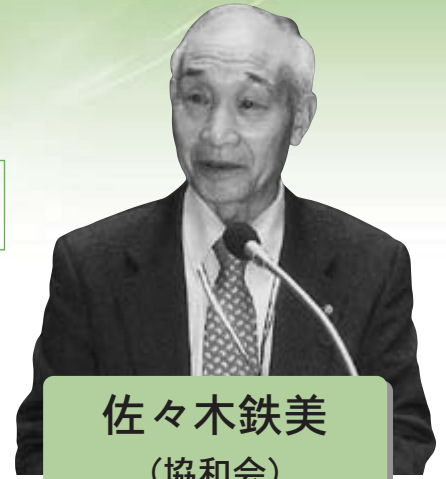
**石川** 総務大臣は制度導入で「官製ワーキングプアを大量に作ってしまった」と述べている。わが町の実態はどうか。

**町長** 20の施設で制度導入し管理運営されている。労働法令に則つて適切に運営されている。今後も労働条件の改善に努めるよう指示する。

# 一般質問

## まちづくりの基本理念と 将来の目標は

**町長** やさしく、やすらぎ、  
産業が息づく町を目指す



佐々木鉄美  
(協和会)

**佐々木** 総合発展計画策定方針案の基本構想の中に、町づくりの基本理念と五城目町の将来の目標を定め施策の大綱を明示するとある。町長の本理念は。

**町長** 自然にやさしく、人、健やかにしてやすらぎ、産業が息づき、明るい文化や香り高い風土の形成と多くの人が交流するふるさと五城目町を目指す。

**佐々木** 農道や林道まで舗装されているが、町民が毎日利用している生活道路が未舗装のところがあるが。

**建設課長** 高崎里下の町道が未舗装となっている。23年度当初予算に工事費を計上している。

**佐々木** 町長に就任して6年間で、主なる施策は何か。

**町長** 平成17年2月五城目町の舵取りという重責



高崎里下の未舗装道路

を担うことになり、6年間にわたり元気なまち、「五城目町」を築いてきた。

**佐々木** 加賀谷町政、佐藤町政でも企業誘致、磯ノ目地区の区画整理、公営住宅建設など、多くの事業に取り組んでいるが。

**町長** 平成18年2月単独立町によるまちづくりの指針となる「五城目町自立計画」を策定し、総合発展計画の積極的な推進と行財政改革や協働のまちづくりを積極的に行ってきた。雀籠公園広場の芝張り、高性寺ジャズインプレッションなどは五城目町の「協働の精神」そのものである。

### 人口減少歯止め対策は

**佐々木** 五城目町の人口は平成22年12月末現在1万9988人となっており、昨年比188人の減少。死亡者数1358人、出生者数47人で、自然減少者数88人。町外流出者数90人となっている。22年は90人の優秀な若者が町から出てくる現状の認識は。

**町長** 安定した生活を送るためには安定した仕事と所得を確保することが最重要となる。産業振興を後押しする施策は「待ったなし」の状況にある。

**佐々木** 若者の定住促進には企業誘致や家賃の安い公営住宅の建設が必要ではないか。

**町長** 企業誘致活動は町の勢いを左右する大きなプロジェクトであり粘り強く丁寧に迅速な対応が求められている。公営住宅の建設は若い世代の住宅需要が高いことは認識しているが、財政負担を考えると慎重な検討を要する。

**佐々木** 地場産材、地元業者で行えば経済効果もあり、町の活性化にもつながる。町出身の若い夫婦、あるいは町外の若い夫婦を募集、入居して

もらえば人口減少、少子化対策にもつながると思うが。

**町長** 地場産業、企業振興策を図り、若者の住環境対策を考える。

### 若い男女の結婚問題

**佐々木** 県では少子化の進行に歯止めをかけようと「婚活支援センター」をスタートさせ、平成23年度当初予算に3千763万円計上。市町村や任意団体に年間運営費の7割を負担する。25市町村に少子化対策費を交付する事業も引き続き実施するが、具体策は。

**町長** 県が実施する各種結婚対策事業に参画し、平成23年度中に「結婚サポーター」を4名選任。出会、交流の場の演出を促し、結婚支援に積極的に取り組む。

この他に

- 湖東総合病院
- 子育て支援と少子化対策
- 地場産業の育成と雇用支援対策

質問しました。

# どうなる、わが町の商工業 振興策・将来像は

## 一般質問

### 町長 「朝市ふれあい館」開設 商業振興に期待



荒川 達雄  
(森盛会)

**荒川** 10年前、ジャスコ、道の駅がオープンし商工業をとりまく環境も大きく変化した。朝市や商店街の現状、今後の町の商工業の振興策は。

**町長** 地方においては地域産業の衰退や商店の減少など、まだまだ厳しい現状にあるものと認識している。特に当町が基幹産業とする農林業及び関連産業の衰退が、そのまま商工業の衰退に繋がっており町としても、企業誘致対策、伝統工芸技能後継者育成事業や中小企業金融対策など施策を展開してきたが、雇用や地域経済活性化に全て反映されたとはいえない現状だ。その中で「住宅リフォーム緊急支援事業」はその成果が出たことから平成23年度も継続で実施したいと考えている。

**荒川** オープンとなる朝市ふれあい館の利活用は。

**町長** この施設は朝市及び地域資源の情報発信、地域住民の相互交流、地域活性化の拠点として文化交流などのコミュニティ活動を支える中核的施設として活用したい。朝市開催時には休憩所として、それ以外の日は多目的ホール及び会議室は地域住民の公民館的な使用と、各種展示イベントなどや特産品の展示、調理室については朝市で販売している材料を使った料理教室などに活用したい。

今後、商工業振興・活性化に大きく活用できるものと考えている。



赤レンガ館と障害者用スロープ

### 観光振興・活性化どう考える

**町長** わが町の観光振興は豊かな自然と温かな人間性をどう生かす。

**荒川** 町の活性化を考えると観光振興は大切な分野と考える。町の観光行政はこのままでもいいのか。

**町長** 本町の観光振興の基本は、第一に豊かな自然を大事にし、そこで暮らす人々の温かな人間性から観光による交流人口が拡大し地域活性化に結びつくものと考えている。町の中心部に自然豊かなシンボル森山と野鳥の森があり、また500年の朝市や県立自然公園の一角馬場目岳周辺や馬場目川上流の清流などがある。さらに、映画「釣りキチ三平」のロケ地、ネコバリ岩や三平の家などが新たな観光地としてある。今後観光協会などと連携しながら観光振興に力を入れたい。

**町長** 生涯スポーツとして健康づくりの原点とは、歩く・走る・汗を流すことの必要性がある。わが町として町民運動への展開はできないか。

**荒川** 生涯スポーツとして健康づくりの原点とは、歩く・走る・汗を流すことの必要性がある。わが町として町民運動への展開はできないか。

# 各種災害を想定し 細かな避難所対策を

## 一般質問

### 町長 地域防災計画で決定している



小林 正志  
(正心会)

**小林** 大火災や大洪水、巨大地震、超大型台風など大災害を想定した時、マニュアルがあっても避難勧告や指示など出せない事態も考えられる。避難所対策は、地区や町内会毎の細かな対策が必要でないか。

**町長** 各種災害を想定した避難場所は地域防災計画で定めている。学校や公民館などの24施設と公園など27カ所ある。「緊急ヘリポート」は離着陸場所を検討し、災害時の通信網整備が必要で、連絡体制、方法は調査したい。

**町長** 人脈を活用し企業誘致で元気な町を

**町長** 情報提供し働きかけたい

**小林** 本町出身者は全国に散

在し、その人脈を活用すれば企業誘致や医師確保などできる。積極的に情報発信すべきだ。

**町長** 積極的な誘致活動で可能性は大きくなる。ふるさと五城目会、近畿五城目会の人脈を活用し、情報提供を得られるよう早々に働きかけたい。

**小林** 名刺裏の県地図に本町を表示、朝市と城のある町、秋田県五城目町と大書し、町の存在を売り込めないか。

**町長** 「仕事ができる名刺」は職員・町長・事業者などが利用すると町をセールスできる。デザイン、費用の負担方法、印刷会社の協力体制など調査検討の必要があるが、試作品をつくり取り組みたい。

### 耕作放棄地対策は

**小林** 農地(田畑)は転作の増加で荒廃している現状だ。植林や雑木、ヨシ原などの農地も少なくない。農業委員会はそのような手段と方法で是正や指導をするのか。

**農業委員会会長** 植林などで非農地化している田畑を委員会等で特定する事は困難な状況であり、地区担当の委員及び農政協力員にお願いし場所を特定し、違反転用防止のためパトロールの強化、町広報などで周知したい。

**小林** 都市近郊ではサラリーマン農家が急増し、耕作放棄地の農地保全がされている。



答弁する嶋崎会長

農地上の50aの下限所有面積を引き下げる事により、農地保全に貢献できるのではないか。

**農業委員会会長** 趣味的要素で農地取得すると農地分散化が進む。農地遊休化が進む地域は下限別段面積を設定できる。下限面積引き下げは、農業委員会で検討したい。

### ランドセルの統一を

#### 町長 保護者の意向を伺う



五城目小学校

**小林** 保護者は入学時の机や衣類、学用品やランドセル購入などで多大な出費を強いられる。せめてランドセルの統一はできないか。また学習環境整備のため、エアコンの設置を求めたい。

**町長** 若い保護者は市販のランドセルの要望が高く、祖母や親族から贈られる場合も多く、黄色いランドセルは年々減少傾向で統一の段階になく、保護者の意向を伺い検討したい。

エアコン設置については必要とする期間が夏休みであること、五城目小学校の老朽化が著しく、改築の時点で検討したい。

# 一般質問

## 新年度予算の目玉は 公共事業は確保したのか？



館岡 隆  
(新世紀クラブ)

### 23年度予算の特徴は

**館岡** 国家予算で公共事業費が8千億円も削減となつている。町のインフラ整備や、政策の裏付けとなる予算配分が必要である。特に公共事業に頼っている当町の事業者と、雇用、町の経済に大変な状態になる。特別に予算に配慮した部分はあるか、目玉は何か。

**町長** 前年に比較して42%の2億1千900万円の減額で、50億4千900万円。大規模事業を抑制し、地方債の発行も極力抑え、財政健全化を意識した。

### 子ども手当か児童手当か

**館岡** 国会が通過するかハッキリしない子ども手当についての考え方は。

**町長** 国が子ども手当を23年度も実施するとし予算を計上した。もし児童手当が復活した時は、国、県からの連絡がなければ動けない。

### 湖東病院の改築について

**館岡** 3月末で一人の医師がやめる。医師募集のチラシを出しておいて、そのやめる医師は厚生連の別の病院に転任する予定と聞いている。厚生連は果たして病院の改築を真剣に考え、地域医療を守れるのか。

**町長** 23年度設計、24年度着工、25年度中の開院予定。医師の確保も同時並行し、開院時に入院再開がベスト。「救急告示」「診療科目の拡大」「増床」までは時間がかかる。

### 少子化・高齢化対策を

**館岡** 当局の予想よりはるかに早いスピードで少子高齢化に向っている。町の人口1万900人に対して20歳以下が1千300人足らず。今こそ大胆な若者の定住促進政策を進めるべきだ。雇用の場の創出は当然であるが、住宅に農地をセットして5年以上住んでくれる方には家賃を無料にする。それにより転入をはかる。

能力のある高齢者のボランティア活動を強力に支援し、子どもや若者達との交流を積極的に進める。



ピカピカの一年生

### 職員の能力アップについて

**館岡** 職員を能力アップさせて、複雑多様化する事務を処理できる人材を育てることが大切だ。平成20年の12月に制定された「職員の自己啓発等休業に関する条例」を柔軟に運用すべきである。

**町長** 能力開発研修は時代のニーズに即した28項目が設定されている。

希望を募っているが参加者が少ない。職員の能力開発を効果的にすすめる。

この他に  
○ 4月10日に県議会議員選挙が施行される。我が町のトップリーダーである町長は政治家として現職議員を堂々と支持すべきである。  
○ GB(じっちゃん・ばっちゃん)ビジネスについて

要望しました。



# 総務 常任委員会

## 企業誘致に1億円積立 企業誘致の促進と地域産業の 活性化を図るため



平成5年に企業振興条例を活用した東北部品(株)  
五城目工場 (旧秋田部品(株))

委員 1億円の基金を積み立てるが、運用規定が決まっていないと問題がある。  
9月をめどに規定を作るとの事だが、4月から企業が必  
要とした場合はどうなる。  
まちづくり課長 企業振興条  
例を踏まえ、県の関係者も含  
めて内容を煮詰める必要があ  
る。基金を創設して、立地促

進に関する経費などを4月か  
ら運用できるようにしたい。  
委員 今の時期にこのような  
制度づくりをすることは非常  
によいことだ。  
まちづくり課長 誘致活動を  
進めながらチャンスがあれば  
直ちに対応できるように積み立  
てるもので、機会を逃したく  
ない。

### 農業委員定数を修正可決

修正可決とした選任による  
議員推薦委員1人を2人とし  
た主な議論は、  
○ 議会推薦の学識経験者と  
して、女性をという要請が  
あったのではないか。

も議会推薦を2人とする修  
正案もある。  
○ 農業委員会の定数目標は  
16人で、議会推薦を2人に  
すると2人増となり、原案  
に賛成だ。

○ 農林水産省通達に、農業  
委員に女性登用があり尊重  
すべきだ。

○ 農業委員の改選期が7月  
であり、よい機会なので議  
会推薦2人の修正案に賛成  
だ。

○ 農業委員会は男性の意見  
が強く、女性の意見・考え  
方が反映されていない。  
○ 女性登用を進めるために

等々の意見が出され採決の  
結果、原案賛成1人、修正案  
賛成3人で修正可決とした。

### 省エネ対策とエレベーター改修

委員 省エネ対策事業でLED  
D化工事の内容、併せてエレ  
ベーター改修工事の内容を聞  
きたい。

エレベーター改修工事は、  
役場建設から30年近く経過し  
ており、故障した場合、供給  
停止となっている部品があり  
修繕できない状態で、きめ細  
かな交付金を使いエレベータ  
ーを改修する。

総務課長 LED化工事は、  
県補助金で税務課・出納室窓  
口に10基、町民福祉課に10基  
の計20基40灯を設置。

(小林 正志)

こんなことが審議されました

# 教育民生 常任委員会

## ゴミ焼却場跡地(内川小倉)に 「ストックヤード」が完成

ゴミ焼却施設跡地に、ストックヤードが完成した。年2回収する粗大ゴミや不法投棄されたゴミ、クリーンアップ時の回収物などを一時保管する。



ストックヤードとしてスタート

### 消防本部庁舎建設検討準備委員会

男鹿、湖東、五城目の各消防署の合併協議に対応し、平成23年までに基本的な方向を確認する。平成24年からは、

運営計画、消防団組織、無線デジタル化への対応、庁舎の規模などについて協議することになる。

### 空き店舗を活用した 放課後児童保育がスタート

教育経験者3名を指導員とし、保育のみならず宿題などへのアドバイスもする。本年度は20名程度を予定し

ていて、場所は「あつたか五城目パン屋」の2階となっている。

### 紀行家 菅江真澄の 足跡を標柱に 町広報で24回連載



菅江真澄

菅江真澄の足跡を標柱にして残す事業が始まる。町広報では24回連載する計画。委員会では、単なる標柱や案内板の設置にとどまらず、各地に点在する史蹟をネットワーク化し、「菅江真澄サミット」などを開催してはどうかとの意見がでた。

(館岡 幸雄)

# 産業建設 常任委員会

# 東日本大震災により 公共工事に遅れ!



工事が遅れている未舗装道路

このたびの東日本大震災により、燃料、アスファルトや工事材料などの調達ができず、左記事業の年度内完成が見込めず、繰り越し明許となり供用開始が大幅に遅れた。

- 朝市ふれあい館外構工事
- 清掃センターストックヤード外構工事
- 西野矢場崎線舗装工事
- 町道入船通線舗装工事
- 公共下水道事業（10箇所）
- 小倉地区水道施設建設事業
- 災害復旧事業

## 朝市ふれあい館設置条例案は修正可決

継続審査中の設置条例案は土地賃貸借契約書を確認し文言の一部を修正し可決となった。

委員からは今後の運営形態はどうなるか。指定管理制度への移行などの質疑があり、当局からは1年間は直営で運営し、その後指定管理にするか、状況を見極めるとの答弁。

職員採用3名。朝市通りのにぎわい創出と活性化を目指して建設を進めてきた「五城目朝市ふれあい館」は4月1日にオープンした。竣工式は大震災の影響で外構工事の完成が見込めないのが5月12日を予定している。

## 「どんぐりの森」を整備

県の「水と緑の森づくり税」を活用して森山森林公園のキャンプ場広場周辺にコナラ、栗、梅を150本植栽する事業が257万円でスタートする。

老朽化していたバンガローは昨年解体している。道路、水道を整備し町民憩いの森として、千代田区との交流の場としても活用を図るものである。

## 地方道路・単独道路整備事業の工事を決定

国の経済対策として補正されたきめ細かな交付金・地方道路交付金を充たして町道改修、舗装工事、側溝改良工事を整備するもの。

平成24年から順次、修繕工事に着手する予定。町道に係る橋は121で、現在通行が規制されている橋は2箇所あり、委員会として早急に対処すべきと指摘した。

（伊藤 正春）

西野矢場崎線、田町線、高崎広ヶ野線を予定している。単独道路整備事業では6路線の道路補修や側溝改良を計画し、工事費は1億2375万円。

橋梁補修事業では「都市計画マスタープラン」を策定し、



# 東日本大震災 議会ドキュメント

- ◆ 3月11日 午後2時46分  
宮城県沖でM9・0の巨大地震発生。わが町は震度4を記録、同時に停電。議会は各常任委員会を開会中で議員と関係職員は全員4階の常任委員会室にいた。ただちに審議を中止する。
- ◆ 3時5分  
五城目町災害警戒対策室を設置。全町の被害状況把握に各課職員が役場外に出る。
- ◆ 5時15分  
停電と火の元注意を町広報車で呼びかけ。
- ◆ 6時30分  
大きな被害報告はなし。総務課、町民福祉課は役場で待機。



奇跡の生還をはたした

- ◆ 3月12日 午前4時50分  
震度4の余震発生。
- ◆ 8時  
全町断水を決定し、広報車5台で断水・節水呼びかけを行なう。
- ◆ 9時15分  
役場の停電解除。
- ◆ 11時  
岩手県大槌町へ旅行中の老人クラブとの連絡が取れず、五城目警察署へ安否確認を依頼。

- ◆ 午後2時30分  
断水解除。
- ◆ 8時30分  
全町停電解除。

- ◆ 3月13日 午前9時  
大槌町の町民の安否確認に町長はじめ職員が奔走。この間、議長・議員も議会事務局に詰めて状況を見守る。
- ◆ 13日 午前9時30分  
県防災ヘリが大槌町のホテルの状況を上空から撮影

## 午後3時30分 43人全員が無事に帰還！

岩手県大槌町から帰ってきた43人を乗せたバスが役場前に到着した。元気に手を振っている姿が窓越しに見える。待っていた家族はもとより

「1階、2階は大破、3階以上は残っている。人影は見えない」。

◆ 9時50分  
家族に連絡が入り全員無事を確認。マイクロバスで盛岡付近を走行中。

関係者から歓声と拍手が湧き上がった。次々に玄関内に入り家族と抱き合う人、泣き崩れる人…。「心配かけた。」涙・涙だが、一様に表情は厳しい。ツアー参加者から話を聞いた。「泊まったホテルの社長さんや従業員の何人かが私たちを避難させた後、行方がわからない」「従業員の誘導で上の若葉会館に避難した」「危険も顧みずにホテルに戻って毛布や布団を持ってきてくれた」「近所からコメを分けてもらっておにぎりにして食べさせてくれた。」お世話してくれた従業員の方々は「あなたたちは帰れば暖かい家も家族も

いる。私たちはみんななくしてしまった…」と泣きながら「おにぎり」を握ってくれたという。その残りを自分たちは雑炊にして食べたという…。「命の恩人です。」リーダー役の猿田利美さんが言うが、これは43人全員の思いである…。

◆ 14日午前10時より  
地震により中断していた各常任委員会を再開。

- ◆ 午後2時10分、本会議  
議案処理のあと、石川交三議員が緊急質問。

**石川** 命の恩人の大槌町にすぐに救護物資を届けよう。

**町長** 気持ちは分かるが、現地の状況把握が必要だ。危険な状況の中で職員を派遣する訳にはいかない。

**石川** 避難者の受け入れを積極的に検討すべきだ。湖東病院も活用したらよいのではないか。

**町長** 火葬の要請があり、子供達についても打診されている。受け入れる意向を表明している。

町長の慎重姿勢に各議員から「すぐやるべき」の意見が噴出。荒川議長が本会議場の議会全員協議会をただちに開催した。

# 東日本大震災

## 支援会議を設置



家族やマスコミでごったがえす役場玄関ホール

議員からは「協働のまちづくりの精神で行政・議会・住民が一体となった取り組みが必要だ」「大槌町に恩を返すというのは人間として血の通った思いだ。こうした時は助け合いだ。町が対策を講じるべきで、やっても誰も文句は言わない」「先遣隊出して現地に行って要望を聞き、危険だつたら帰ってくれば良い」「食糧は緊急を要する。対応遅ければ悔いを残す。早くやらないと」「五城目のコメを早く現地に送ろう」などの意見が続出した。これを受けて渡邊町長が「安全面を優先し、県とも連携をとりながら早急に具体化を進めたい」と発言。

議長が早急な対応を求めた後、各議員から「当局だけで対策を進めているので、火葬や児童生徒の受け入れも情報が議会に伝わらない。議会側も入れた体制を作ってほしい」との意見がだされた。

### ◆ 3月15日

町当局と議会三役に常任委員長三人を加えて対策を協議（東日本大震災支援会議）（第一回）「とにかく現地に行くべきだ」と意見が一致。

### ◆ 3月16日 午前7時

世話になった方々から寄せられたコメや物資を積んで

先遣隊が出発した。



大槌町へ先遣隊出発

### ◆ 午後2時30分

大槌町からブルーシートなど必要な物品について連絡があった。

### ◆ 3月17日 午前8時

大槌町への救援物資を受付。町民、職員、議員から多数の物資が役場に集まる。

### ◆ 午前9時

2トントラックをレンタル。井川町からも物資が届いた。午後4時。救援物資の積み込みが完了する。

### ◆ 3月18日 午前7時

ワゴン車と2トントラックで大槌町へ救援物資を搬送。

### ◆ 3月27日

千代田区が大槌町に4トントラック2台で救援物資を

搬入。町から職員3名が合流・先導し現地へ。

### ◆ 3月28日

千代田区が放射能汚染で飲料水不足の情報があり大型トラックで13・2トンを搬送する。

### ◆ 4月4日 午後3時

東日本大震災支援会議を開催。



お世話になったホテル従業員と  
(右から2人目が、中村出身の田中節子さん)

### ◆ 4月7日

荒川議長と渡邊町長が大槌町へ。災害対策本部で伊藤正治教育長に義援金（ツア）でお世話になった皆さんが集めた募金、ポイイスカウト、五一中吹奏楽部、職員、議員全員）の目録と要望のあった野菜など段ボールで2000個を届けた。

(石川 交三)

# 請願 陳情

## 陳情

### 採択

最低賃金の大幅引き上げと、中小企業支援の拡充を求める陳情書

秋田県春闘共闘懇談会

代表委員 中村 秀也

秋田県労働組合総連合

議長 長 佐々木 章

秋田県中央地域労働組合総連合  
議長 長 今野 剛

### 採択

労働者派遣法の早期抜本改正と雇用の安定を求める陳情書

秋田県春闘共闘懇談会

代表委員 中村 秀也

秋田県労働組合総連合

議長 長 佐々木 章

秋田県中央地域労働組合総連合  
議長 長 今野 剛

### 採択

23年度年金引き下げの撤回と無年金・低年金者に緊急措置を求める陳情

全日本年金者組合秋田県本部  
湖東支部

支部長 土橋 茂

### 継続

辺野古への新基地建設、米軍訓練の全国への移転拡充を約束した「日米合意」の撤回を政府に求める意見書について

秋田県平和委員会

理事長 風間 幸蔵

### 継続

米軍への「思いやり予算」廃止の意見書採択を求める陳情

安保破棄諸要求貫徹秋田県実行委員会

事務局長 中田 博

### 不採択

後期高齢者医療制度の廃止に関する意見書の提出を求める陳情

全日本年金者組合秋田県本部  
湖東支部

支部長 土橋 茂

## 意見書送付

五城目町議会の意見書を各関係機関に提出しました。

最低賃金の大幅引き上げと、中小企業支援の拡充を求める意見書

### 提案理由

地域最低賃金を大幅に引き上げること、中小企業予算の増加と支援策の拡充に向けた中小下請け企業関連の法改正や、運用改善を求める。

### 提出先

内閣総理大臣 菅 直人  
厚生労働大臣 細川 律夫

労働者派遣法の早期抜本改正と雇用の安定を求める意見書

### 提案理由

労働者派遣法により良い改正を実現することと安定した良質な雇用を求める。

### 提出先

内閣総理大臣 菅 直人  
厚生労働大臣 細川 律夫

23年度年金引き下げの撤回と無年金・低年金者に緊急措置を求める。

### 提案理由

23年度の年金引き下げ改定の撤回と、無年金・低年金者への一定の所得保障を求める。

### 提出先

内閣総理大臣 菅 直人

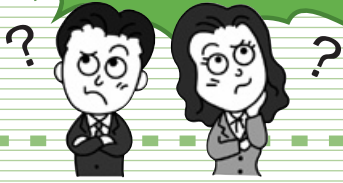


職場就労風景

(佐藤 重信)

あれ

# なんとなつたべが!



平成22年3月定例会一般質問より



県は病院の「再編計画」を示してはいるがー。

問

湖東総合病院から医師がいなくなる。救急、地域医療をどうするか。

答

本町の砦として守っていく。

現在

関係4カ町村との連携のもと、県が示した「湖東地区医療再編計画」を推進し、医師の確保を図りながら地域医療の確保と救急医療体制の整備に努力している。

問

教育福祉活動センター（旧杉沢小・中学校）の今後の運営は。

答

検討委員会を開催し、管理運営をまとめる。

現在

杉沢交流センター「友愛館」として、生涯学習課の管轄となっている。地域と連携した体験活動やイベントなどの事業を実施する予定。

問

公共空間の全面禁煙は。

答

町広報や健康相談事業などを通じ、啓蒙活動を検討する。

現在

公共施設の全面禁煙は、他公共団体の動向や社会情勢を見極めながら更に検討する。



問

公契約条例の制定を。

答

制定には検討を要する。

現在

公契約条例は、国や自治体が発注する事業の現場で働く労働者に対して、安定した賃金と労働条件を条例により保証するものであり、実効ある条例とするためには、国の法体系の整備が優先する。



禁煙対策は

# いちび たずねて

松橋

幸栄さん  
(内川黒土)



◆いつ頃から「いちび」に  
来たのですか。

**松橋** 昭和23年、18歳の時  
から来ています。

◆きつかけは何ですか。

**松橋** 「母さん(姑)」のあと  
を継いだのです。

◆売りに出している物は、  
全部自分で用意したもの  
ですか。

**松橋** 野菜は自分の畑で作  
ったもので、山菜は自分で朝  
夕に山へ行って採り、上岩川  
の山までも自転車でいきます。

◆どうして、それ程働きまし  
たか。

**松橋** 生きて行くためもあ  
ったが、子供達を学校へ上げ  
たかった。「女学校」「高等学校」  
「大学」へ行かせたかった。

◆今まで楽しかったのは何  
ですか。

**松橋** 「いちび」で売れて  
お金になったこともあるが、  
「いちび」に来た方々と話し合  
えることです。

それに売ったお金を貯めて  
旅行したこと。国内の有  
名なところは勿論だが、イン  
ド・インドネシア・オースト  
ラリア・ハワイ・中国・韓国  
などにも行った。難儀もした  
が楽しみもあった。

◆辛かったことは何ですか。

**松橋** 「雪の降った日」「物  
が売れないとき」「一日で13  
0円より売れないときもあつ  
た。」

◆これからの「いちび」を  
活性化するにはどうすれ  
ば良いと思いますか。

**松橋** 町の「いちび」通り  
で「きのこ」祭りなど行事を  
多くやって欲しい。

(聞き手：大石フサ)

## がんばってます



(株)シック関口  
渡邊 美矩さん

私は(株)シック関口に入社  
が決まり、三月二十二日か  
ら仕事が始まりました。

今教えていただいている  
ことは、裁断されたパーツ  
に印を付いたり、出来上が  
った商品を畳んで袋に入れ  
ることなどです。「そんな  
簡単な仕事」と思われる方  
もいるかもしれませんが、  
例えば印付け一つにしても  
私がいい加減な印を付けて  
次の担当の方に渡し、その  
まま縫ってしまつと、サイ  
ズが変わつてしまい、流れ  
作業がうまくいかなくな  
り、たくさんの人に迷惑を  
かけてしまいます。

単純な仕事でも、責任を  
持ってやらなくてはいいけ  
ません。

せん。

社長にはなんの為にその  
作業をしているのか考えな  
がら仕事をするように教え  
ていただきました。そのこ  
とを意識して、日々の仕事  
に励んでいるつもりです。

私はどちらかというとの  
んびりした性格なので、新  
社会人として他の人に迷惑  
をかけないよう自分なりに  
頑張っていきたいと思いま  
す。

そして、たくさんいらつ  
しゃる先輩方の名前と顔や  
仕事を早く覚え、この会社  
の一員として認めていただ  
けるように努力していきたく  
と思っています。

(取材：伊藤英紀)

## 編集 後記



長かった冬のトンネルを抜  
け、ようやく春が来た。  
真新しいランドセルを背負  
う小学生、制服に身を包んだ  
中学生、新入社員。  
まさにフレッシュそのもの  
だ。

3月定例会中2度の地震に  
見舞われた。9日と11日の14  
時46分。4階の揺れは大きく、  
電気が止まり街からは明かり  
が消えた。

反射ストーブで暖をとり、  
ロソクを灯し、ラジオを聞  
いて情報を得た。

岩手県大槌町浪板観光ホテ  
ルに旅行中の町民36名は被災  
しながらも無事帰町した。

全員が観劇中で、地震と同  
時にホテルの職員や添乗員の  
機転で難を免れた。

それにしても未曾有の大地  
震に大津波、加えて原発事故。  
何よりも尊い多数の生命が一  
瞬のうちに津波に呑み込まれ  
てしまった。

「備えあれば憂いなし……。」  
日々の心構えが肝心としみ  
じみ思う。

小林 正志